

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		182	1 2 3 4	C. Quantitative Unendlichkeit. 1. Begriff derselben.	C. 量の無限態 一. 量の無限態の概念	C 量的無限性 一 それの概念
501	1		5 6 7	Das Quantum verändert sich und wird ein anderes Quantum; es ist aber eine weitere Bestimmung dieser Veränderung, daß sie <i>ins Unendliche</i> fortgeht.	数量は、変化し、他の数量に成る。しかし、この変化のより詳細な規定は、《この変化が【無限のものに】続いていくこと》である。	定量は変化して他の定量になる。だが、変化が無限に進むということは、この変化のより進んだ規定である。
502	1		8 9 10	Das Quantum wird ein <i>Anderes</i> ; es continuirt sich in sein Andersseyn; das Andre ist also auch ein Quantum.	数量は、〈【他のもの（他の数量）】〉に成る。数量は、連続してみずからの〈他のあり方〉になる。したがって、〈他のもの〉は、ある数量でもある。	定量は他者になる。それはその他在へと連続している。したがって他者もまたひとつの定量である。
	2		10 11	Aber das Andre ist zugleich das Andre nicht nur <i>eines</i> Quantums, sondern <i>des</i> Quantums selbst.	しかし、この〈他のもの〉は、同時に、【ある】数量のみの〈他のもの（他の数量）〉ではなく、むしろ、数量【なるもの】それ自身の〈他のもの〉でもある。	だがしかしこの他者は同時に、ひとつの定量の他者であるだけでなく、定量そのものの他者である。
	3		12 13 14	Denn das Quantum ist die gleichgültige Bestimmtheit, welche gegen Anderes, aber auch <i>gegen</i> sich gleichgültig ist.	というのも、数量たるものは、無関心な規定態であり、この規定態は、〈他のもの（他の数量）〉に対して無関心であるのだが、みずからに【対して】も無関心だからである。	というわけは、定量は、他者に対して無関心的であるばかりか自己に対してもまた無関心的だという、そういった無関心的な規定態であるから。
	4		14 15 16 17 18 19 20	Wie sich seine Momente in dem intensiven Quantum bestimmt haben, ist es die Bestimmtheit, die sich nicht auf anderes, sondern auf sich selbst bezieht; eben so sehr aber ist diese Bestimmtheit schlechthin nur die Bestimmtheit in einem Andern; die Beziehung auf Anderes ist ihm äusserlich, aber es ist selbst diese Aeusserlichkeit seiner.	数量のもろもろのモメントが内包的な数量で規定されたように、数量は、みずからを他の数量に関係づける規定態ではなくて、みずからをみずから自身に関係づける規定態である。しかし、同じ程度に、こうした規定態は、端的に、〈他のもの（他の数量）〉のかたちをした規定態にすぎない。〈他のもの（他の数量）〉への関係は、数量にとっては外面的なものであるが、数量は、それ自身、みずからのこうした外面態なのである。	定量の両契機が内包的な定量において規定されたように、それは他者ではなく自己自身に関係している規定態である。だがこの規定態はまた同じく端的に他者における規定態にすぎない。他者への関係は定量にとって外的であるが、定量はそれ自身が自分のこの外面性である。
	5		20 21 22 23 24	Es ist also das Quantum selbst, welches sich widerspricht, und somit sich an sich auflöst; es selbst ist somit die Negation seiner selbst; die Veränderung betrifft nicht nur <i>ein</i> Quantum, sondern <i>das</i> Quantum.	したがって、数量それ自身は、まさに、みずからに矛盾し、またそれによってそれ自体で解消するものである。数量それ自身は、このことによって、みずから自身の否定である。変化は、たんに【ある】数量に関するのではなく、数量【なるもの】に関するのである。	自己に矛盾しており・またしたがって本来的に自己を解消させるのは定量そのものである。だから定量自身がそれ自身の否定であり、変化がおこるのはひとつの定量についてだけでなく、定量そのものについてである。
	6		24 25	Das Quantum ist ein <i>Sollen</i> ; es enthält, <i>an sich bestimmt zu seyn</i> , und dieses An-sich-be-	数量は、ある【当為】である。この当為は、【それ自体で規定されていること】を含んでいる。そ	定量はひとつの当為である。それは本来的に規定されているということを含んでい

	183	26 27 28 1	stimmtseyn selbst ist vielmehr das <i>Bestimmtseyn in einem Andern</i> ; und umgekehrt ist es das aufgehobene Bestimmtseyn in einem andern; es ist gleichgültiges Bestimmtseyn.	して、このように〈それ自体で規定されたあり方〉それ自身は、むしろ、【ある〈他のもの（他の数量）〉のかたちで〈規定されたあり方〉】である。しかも、逆に反転して、〈それ自体で規定されたあり方〉は、〈他の規定されたあり方〉のかたちで〈規定されたあり方〉なのだが、この〈規定されたあり方〉が廃棄されているといった〈規定されたあり方〉なのである。だから、〈それ自体で規定されたあり方〉は、無関心な〈規定されたあり方〉である。	るが、この本来的に規定されて在ること自身がむしろ他者において規定されて在ることなのであり、また逆に定量は他者において規定されて在ることの揚棄されたものである。〔つまり〕定量は無関心的な規定されて在ることである。
	7	1 2 3 4	Es ist also gegen sich selbst ein Anderes und Aeusserliches; es enthält diß, endlich zu seyn, und über die Endlichkeit, über das Bestimmtseyn in einem Andern hinauszugehen, und <i>unendlich</i> zu seyn.	したがって、数量は、みずから自身に対して、ある〈他のもの（他の数量）〉であり〈外面的なもの〉である。数量は、有限であるということを含むし、有限態を超えて、つまり〈規定されたあり方〉を超えて行き〈他のもの〉になることを含み、そして【無限】であることを含むのである。	したがって定量は自己自身に対して他者であり、外的なものである。定量は有限であることを、また有限性・すなわち他者において規定されて在ることをこえ出てゆくことを、こうしてまた無限的であることを含んでいる。
503	1	5 6 7 8 9	Bey der <i>qualitativen</i> und <i>quantitativen Unendlichkeit</i> ist es wesentlich zu bemerken, daß nicht von einem Dritten über das Endliche hinausgegangen wird, sondern daß die Bestimmtheit als sich in sich selbst auflösend, über sich hinausgeht.	【質の無限態】と【量の無限態】のところでは、本質的に次のことをコメントすべきである。すなわち、〈第三のもの〉によって〈有限なもの〉が超えられて行くのではなく、むしろ、《みずからみずから自身において解消する規定態がみずからを超えて行くのだ》ということである。	質的無限性と量的無限性のもとで本質的に認められるべきことは、有限なものは第三者によつてのりこえられるのではなく、規定態が自己自身のうちで自己を解消するものとして自己をこえ出てゆくということである。
	2	9 10 11 12 13 14	Aber das qualitative und quantitative Unendliche unterscheiden sich dadurch, daß im ersten der Gegensatz des Endlichen und Unendlichen qualitativ ist, und der Uebergang des Endlichen in das Unendliche, oder die Beziehung beyder auf einander nur im <i>Ansich</i> , in ihrem Begriffe liegt.	しかし、質の〈無限なもの〉と量の〈無限なもの〉とは、次の点で区別される。すなわち、質の〈無限なもの〉においては、〈有限なもの〉と〈無限なもの〉との対立が質的であり、〈有限なもの〉が〈無限なもの〉へと移行すること、あるいは、この両者がたがいに関係することが、たんに、その【それ自体】のうちのみ、つまり両者の概念のうちのみある。	だが質的に無限なものとは、前者においては有限なものとの対立は質的であり、有限なものとの無限なものへの移行・換言すれば両者の相互関係は即自のうちに・それらの概念のうちだけにだけあるということによって区別されている。
	3	14 15 16 17 18	Die qualitative Bestimmtheit ist zunächst unmittelbar, seyend; und bezieht sich auf das Andersseyn wesentlich als auf ein ihr Anderes, sie ist nicht gesetzt, ihre Negation, ihr Anderes an ihr selbst zu haben.	質の規定態は、さしあたり、直接的で存在するものであるし、本質的にみずからの〈他のもの〉である〈他のあり方〉へとみずから関係する。質の規定態は、ほかならぬみずから自身のもとにみずからの否定を具え、つまりみずからの〈他のもの〉を具え、規定されていない。	質の規定態はまず直接的・存在的であり、かつその他者としての他在へと本質的に関係している。それは、その否定・その他者をそれ自身のもとに〔顕在的に〕もつものとして定立されてはいない。
	4	18	Die Größe hingegen ist	これに対して、〈大きさ〉は、そうした規定態で	これに反して大きさは、それ自身が、揚棄

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）501段落~503段落

		19 als solche, aufgehobene Bestimmtheit; sie ist gesetzt, die 20 Negation, ungleich mit sich und das Veränderliche zu 21 seyn.	はあっても、規定態が廃棄された規定態である。 〈大きさ〉は、否定であり、みずからと同等では なく、〈変化するもの〉であると設定されている。	された規定態である。それは、否定であり、 自己と等しくなく・変化するものであると 定立されている。
	5	21 Das qualitative Endliche und Unendliche stehen 22 sich daher absolut gegeneinander über; ihre Einheit ist, 23 die zu Grunde liegende <i>innerliche</i> Beziehung; das 24 Endliche continuirt sich daher nicht unmittelbar in sein 25 Anderes.	それゆえ、質的な〈有限なもの〉と〈無限なもの〉 は、絶対的にたがいに対向しあっている。これら の統一は、根底にある【内面的な】関係である。 だから、〈有限なもの〉は、直接的にはみずから の〈他のもの〉へと連続しないのである。	だから質的に有限なものとは無限なものとは 相互に絶対的に対立している。両者の統一 は根底に存する内的な関係である。だから 有限なものは直接にその他者へと連続 していない。
	6	25 Hingegen das quantitative Endliche bezieht sich 26 an ihm selbst in sein Unendliches.	これに対して、量の〈有限なもの〉は、みずから 自身のもとのみずからに關係し、みずからの〈無 限なもの〉になる。	これに反して量的に有限なものはそれ自 身のもとで〔顕在的に〕その無限なもの へと關係している。
	7	26 Ihre Beziehung ist 27 daher <i>der unendliche Progreß</i> .	だから、この二つの関係は、【無限な進行】とな るのである。	だから両者の関係は無限進行である。